



金村神社 (葛城市)



平安時代から続く古社

大阪府との境にある金剛山地のふもとでは、いく筋もの小川が、田畑を潤しながら東へと流れています。その一筋に高田川があります。かつては御手洗川と呼ばれ古来、身を清めるために使われ、上流から不

浄のものを流すことを固く禁じてきました。その川の北側に金村神社が鎮座しています。今では境内わずか約84坪(約280平方尺)に一間社春日造(正面の柱間が一つで、切り妻屋根で棟と直角な面に入り口がある様式)の本殿がある小さな神社ですが、平安時代の神社一覽である

武烈天皇の崩御で皇

社伝によると、祭神は
大伴金村です。金村は仁
賢天皇から欽明天皇まで
6代にわたり活躍しまし
ら姿を消しましたが、の
ち旅人や家持などが歌の
世界で名を残しました。
(奈良まほろばソムリエ
の会員 東辻裕子)

(住所) 葛城市大屋2-1-3
(祭神) 大伴金村
(交通) 近鉄新庄駅から徒歩約25分

(拝観) 境内自由
(駐車場) 無
(電話) 無

「延喜式神名帳」には
統が絶えようとした時、
心神天皇の子孫を越前
(福井県中部) から探し
出し、第26代継体天皇と
して即位させました。
しかし第29代欽明天皇
の時代に、百濟から賄賂
を受け取ったと疑われ
て、失脚しました。
金村が世を去ってから
大伴氏は政治の表舞台か